

## 第10回 香川・岡山両県知事会議 議事録

- ・日 時：平成25年10月8日（火）15:30～16:15（記者会見 16:15～16:35）
- ・場 所：香川県庁本館21階特別会議室
- ・出席者：岡山県 伊原木知事、香川県：浜田知事

### 1 開 会

**司会** 私は、香川県政策部の西原でございます。慣例によりまして開催県の担当部長が進行役を務めさせていただくことになっておりますので、よろしくお願いいたします。まず初めに開催県であります香川県の浜田知事からご挨拶申し上げます。

### 2 挨 拶

**浜田知事** 伊原木知事には、本当にご多忙の中、香川県にお越しいただきまして、誠にありがとうございます。この両県知事会議を続けてきておりますけれども、現在もやはり各地方において人口減少社会という現実、またいろんな環境の変化に対応して、自ら選択し、また責任を持ってこの行政を進めていく必要があるのかと思っております。このようななかで共通の課題を抱える両県がこのような形で率直に意見交換をして、互いの認識を深め力を合わせていくというのは大変有意義なことだと思っております。その中でも瀬戸大橋は両県を繋いでおり、本年25周年を迎えました。これを記念しての事業いろいろございますけれども全国小学生コンクールは、来月与島で表彰式が行われます。さらに本県では瀬戸大橋のたもとにあります瀬戸大橋記念館をリニューアルしております。今週12日にリニューアルオープンしますので、また何かの折にお越しいただければと思います。また、本年はご案内のとおり、瀬戸内国際芸術祭2013の年でありまして、岡山県犬島また宇野港にもご参加いただいております。会期が春、夏、秋とわかれたわけですが、秋会期が今月5日から開幕しております。そういう話題もありますが、さらに瀬戸内海の関係では国立公園80周年でありまして、一番最初の国立公園であるということとそのなかでも現在非常に瀬戸内海国立公園の領域が広がっておりますけれども、当初はまさに備讃瀬戸、岡山、香川間が国立公園第一号であるということでもありますので、岡山香川両県、瀬戸内海に注目がますます集まっておりますなかで、共有している魅力、資源を最大限に活かしていくことが両県の活性化になっていくのではないかと思っております。本日は色々な課題について、意見交換をして、今後とも両県の連携協力を密にして、ともに地域づくりに取り組んでまいりたいと思っておりますので、どうかよろしくお願い致します。

**司会** それでは続きまして、伊原木岡山県知事様からご挨拶をお願いいたします。

**伊原木知事** 浜田知事におかれましては、両県知事会議の開催に当たりまして、格別のご配慮をいただきましたこと本当にありがとうございます。両県は皆さまご案内のとおり、民放のテレビの放送エリアが同一ということもありまして、私もテレビのニュースを見ると浜田知事のお顔を拝見することが多くございまして、それは岡山県民みな同じでありまして、非常になじみの深い香川県、ぜひ今後ともいろいろお付き合いをさせていただきたいと思っております。また、両県の抱える課題を考える上で欠かせないものが瀬戸内海

であります。非常に美しく、また水産資源の宝庫である瀬戸内海は、江戸時代の朝鮮通信使の例を引くまでもなく、文化の通る道でございました。また、海上交通の大動脈でもございました。先ほどお話にありましたように、今年瀬戸大橋開通 25 周年、また来年は瀬戸内海が国立公園に指定されてから 80 周年を迎える記念の年になります。そういう瀬戸内海を活用した連携につきまして、両県を含む関係 7 県で瀬戸内ブランド推進連合を 4 月に設立したところでございますが、さっそく今月 4 日には推進連合とサントリーさんとの間で、瀬戸内ブランド連携協定の締結をいたしました。また、今月 18 日からはイオングループさんによる「瀬戸内イイね！キャンペーン」が開催されることになっております。本日は両県共通のすばらしい財産である瀬戸内海に関連するテーマについて、意見交換をさせていただき、瀬戸内海を含めたさらなる連携をぜひ一緒に進めていきたいと思っております。本日は両県の絆を一層強め、相互の発展に向けて実りあるものになるよう祈念いたしまして挨拶とさせていただきます。

**司会** それでは、これより意見交換に入らせていただきたいと思います。なお本日の日程でございますが、意見交換としましては 1 時間程度、16 時半頃を目途に意見交換させていただきたいと存じます。その後共同記者会見の時間を設ける予定としております。よろしく願いいたします。それでは、これ以降の意見交換につきましては、進行も含めまして浜田知事よろしく願いいたします。

### 3 意見交換

**浜田知事** はい、それでは、まず早速、最初の項目の交通対策であります。そのうちの本四高速の料金問題につきまして、最初に私の方から発言をさせていただきたいと思っております。ずっと懸案になっております本州四国道路の高すぎる高速料金問題、これにつきまして、ネクスコと比較して別料金である、さらにまた割高であるということで、せっかくのアクセスがむしろバリアになっているということで、長年努力してまいりましたけれども 26 年度からぜひ全国共通料金にさせていただきたい。ここは一致しているはずなんですけど、ご案内のように割引の適用というところでネクスコと違ってくる可能性があるということは大変危惧しております。割引も含めて地域間格差のない、そして利用しやすい料金になることが両県の各市町を含めた自治体の共通の思いであると思っておりますので、ぜひそういった全国共通料金が、実現できるように連携していければと思っております。

**伊原木知事** 全くその通りでありまして、岡山県もこれまで香川県をはじめ関係各県と連携して国の方に訴えてきたところであります。とにかく作ったものが料金が高いから使えないというのは国富の非常な無駄遣いになります。例えば車が累計で 1 億台通ったらもう使えなくなる橋というのであれば、その 1 億台分をどううまく使うかということなんですけれども、これは年数でほぼ決まっています、100 年持つなら 100 年、その間何台通ろうとほとんど耐用年数は変わらないわけですから、うまく使うか普通に利用するかということですので、これが今のように料金が高いままでせっかく作ったのに誰も使わないということにするのが一番の無駄遣いになります。ぜひ香川県と協力して国に対して、本州四国連絡高速道路株式会社についても、強力に訴えかけていきたい。せっかく作ったのですからちゃんと使って、両県をはじめ、地域の活性化に繋がるようにしていきたいと考えており

ます。ぜひともよろしくお願いします。

**浜田知事** ありがとうございます。この件に関連して、両県共通の宇高航路の存続の問題があります。これにつきまして、伊原木知事からよろしくお願いします。

**伊原木知事** 悩ましいところございまして、さきほど橋のこと、経済のことを考えるとできるだけ安い方がいいということなんですけれども、岡山県にとって大変大事な玉野市は宇高航路の発着地点になっています。その玉野市民にとっては、フェリーが生活の足である、もしくは地域の活性化にとって大変大事な航路になっています。なんとかこの航路を存続させたいという強い思いを持っております。また他方、例えば、香川県の株式会社タダノさんの大型クレーンのように橋では運べないような特殊な、主に大きなものがございまして。そういう用途もあるこの宇高航路をなんとか存続させたいと思っております。いろいろ国の方をお願いをしております、8月に行いました国に対する提案において、宇高航路を存続させるために、効果的な支援制度を創設することをお願いしたところではありますけれども、まだ先行きが見通せず、地元の皆さんは非常に不安に思っております。そういうことがあるということを入れておいていただければと思います。

**浜田知事** まさに我々にも宇高航路は非常に重要な航路であるということで、同じ立場ではありますけれども、やはり高速道路の料金は基本的に全国共通であって、何か違いを設けるというのは、伊原木知事さんがおっしゃったような利用されなくなるということに繋がってしまう。それではいけないと思いますし、何よりもそういうハンディキャップをないようにぜひして欲しい。それが結果的に海上交通の方に影響するというのは、その通りだと思いますけれども、その点については、まずは高速交通として、大阪からの距離、東京からの距離が同じであれば同じ料金ではないかというのが基本であって、そのうえで、しかし実際には海上、瀬戸内海を通っているということが、他の交通手段に影響がある。実はバスとかJRとかもある程度ありますけれども、海を通っていることが特殊だと、そこがまさにローカルな話でもありますので、我々地域も責任をもっていかなければならないと思いますが、だからといって、そこを勘案して差をつけようというような今回の審議会の話はそういうことではなくて、まず利用しやすい格差のない料金にさせていただいて、それから総合交通体系の中で国と地方でフェリーの存続、あるいは公共交通全体のことを考えていきたいと思っております。そういう趣旨を踏まえ、お手元に配付しております「本州四国連絡高速道路への全国共通料金の導入等に関する共同アピール」の提案をいたしたいと存じますけれども、いかがでしょうか。

**伊原木知事** はい。おっしゃる趣旨、その通りでありまして、共同アピールをぜひ採択して、国に対して要望していきたいと思えます。

**浜田知事** それでは、このアピール文、1項目目が全国共通料金の導入にむけて、2項目目がフェリー等公共交通機関への支援ということで、アピールとしたいと思います。このアピール文につきまして、各県において、地元国会議員に説明するとともに、関係省庁への提案等につきましては、事務局に一任させていただくということでもよろしいでしょうか。

次に、今度は、高速鉄道、新幹線等の問題につきまして、私から発言させていただきます。昨年、前石井知事が座長となられていた全国知事会の「日本のグランドデザイン構想会議」の話であります。多極交流圏の創設という観点、いわゆる国土軸の多重化、こういったことから、新たな国土構造の構築という観点で全国新幹線網の早期整備をおこまれた「日本再生デザイン」が取りまとめられたわけでありまして、私ども四国側でも別途四国の鉄道活性化への提言というものが既になされておりまして、いろいろと四国四県、国、経済界会と検討を行っているところであります。四国では「四国の鉄道高速化検討準備会」というもので、鉄道高速化というものの効果を明確にして、四国にふさわしい鉄道高速化の方策を検討をして、国に提言していければ、格上げ等に向けた国の調査につなげていきたいと考えております。ご存じのとおり、この計画では四国横断新幹線というものがあまして、横断の方が実は縦軸であります。いわゆる縦軸の瀬戸大橋ルート、岡山香川両県にとって重要ではないかと思っております。瀬戸大橋すでに新幹線区画という構想になっておりますし、岡山側は一部土地も購入されておりますので、四国横断新幹線、縦軸の方は比較的早期に整備が可能ではないかと思っておりますので、本県としては提言を軸としながら、20年、30年先を見据えた大局的な議論を行う必要があると考えておりますけれども、とりわけ、山陽新幹線との接続という意味でも岡山県との連携が必要だと思っておりますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思っております。

**伊原木知事** 先ほど瀬戸大橋の料金はすぐにでもやってほしいと申しましたが、今回の新幹線は将来に向けて、できるだけ短い時間でお互いを結ぶというのは、地域の発展のためにも大切だと考えております。現実的なこととしましては、岡山県とすれば中四国横断新幹線の実現もさることながら、実現までの段階的な整備として、JR伯備線や瀬戸大橋線へのフリーゲージトレインを導入するというのはいかがでしょうかと提案をしているところでございます。どういう段階で進んでいくのか、どれくらいの時間がかかるのか、整備新幹線をみてもなかなか簡単そうではない。とにかく行き来がしやすくなるということは大変大事なことです。連携して協力して取り組んでいきたいと思っております。

**浜田知事** おっしゃる趣旨は私もよくわかりますし、フリーゲージについては本県議会でもそういった話がございます。大きく言えばやはり全国新幹線網の整備の中で、そういったことも含めて、整備スキームの問題がありますので、今現在のスキーム上は整備新幹線の導入とありますので財源的なものがきちんと手当されている形になっていますから、将来的にやはり、四国側としては四国には地域新幹線がないので、将来を考えた時にこれではいけないと思います。フリーゲージといったものも含めて、四国の中で検討しておりますので、そういった点も含めて一緒に整備に取り組んでいければと思っております。ありがとうございました。

それでは次に、またちょっと高速道路に戻りますけれども、高速道路整備促進につきまして、伊原木知事のほうからご発言いただければと思います。

**伊原木知事** アクセスものが続きますけれども、岡山県及び香川県は中国横断自動車道岡山米子線、瀬戸中央自動車道、四国横断自動車道によって日本海から瀬戸内海を経て太平洋に至る高速道路ネットワークの中央、中四国におけるそれぞれの玄関口として位置してお

ります。大変重要な役割を担っているこのネットワークでございますけれども、残念ながら中国横断自動車道岡山米子線の一部のほか暫定2車線区間が残っておりまして、高速性、安全性を確保して、ネットワークの信頼性を向上させるためには、ぜひ早期に4車線化が必要であると考えております。実際8月には私が国土交通大臣に強く要望してきたところでございますけれども、近隣各県とも連携をしていきたいと思っておりますので、ぜひともよろしく願いいたします。

**浜田知事** 本県も同じように、高松自動車道、高松東から徳島へ向けたこの路線が、まだ暫定2車線ということで、京阪神の重要なルートにもなっております。いわゆる災害時の緊急輸送路という防災面でも4車線化を進めていくのは大変重要なことだと思っております。高速ネットワークが産業、観光の振興、大規模災害という面で大変重要であるというのは、伊原木知事さんがおっしゃったとおりであります。今後とも連携強化していければと思っております。そういう意味でも最初の本四架橋の話に戻るわけですが、私がよく言っているのは、仮に瀬戸内海が海ではなくて陸地であれば、そこに高速道路が3本しかないというのは少ない。そういう中で貴重な道路が使われてないのではいけないということになるわけです。そうした交通インフラは地方にとって非常に重要でありますので、これからもぜひ協力していければと思っておりますので、よろしく願います。それでは、テーマが変わりますけれども、地方財政関係であります。地方財源の充実強化ということについて、まず私から発言させていただきます。現在の地方財政の課題で、地方側からすると交付税を含む一般財源、特に交付税の総額確保ということがどうしても必要ではないかと、これまで三位一体以降の落ち込みから回復してきているということでもありますけれども、現在、今後の地方財政についての考え方というのが、国の方でいわゆる平時モードというような話もあって、リーマンショックの時の状況である危機対応モードから平時モードへの切り替えということが言われているようでもありますけれども、やはり私はまだまだ切り替えという段階ではないというような気がします。そもそも別のところが切り下げられた形になっているので、国の対応からすれば手厚いという意識があるのかもしれませんが、それがそもそも違ってくるのではないかと。本来、危機対応の臨時的対応で、例の特別枠等が本来あるわけで、実は今日もWEBでの途中参加であったのですが、知事会地方税財政常任委員会の意見取りまとめで、関係の案文でまだ立ち直っていないから歳出予算の手当てをやめずに残してくれというふうに読める部分がありまして、それではしばらくしたらというか近い将来、危機モードから抜け出た時は、あるいは景気が回復すればもう廃止していいのか、そうではないのではないかと議論があったと聞いております。まさにそういったことが必要であると思っております。いずれにせよ国において一方的に制度の議論をして、今回いろいろなことがありましたけれども、この後の給与の問題もそうですけれども、地方側の制度について、交付税なり地方税財政制度について、地方と十分に議論する機会が必要だと思っております。

**伊原木知事** 私も浜田知事のおっしゃられるとおりでと思っております。私は国で働いた経験がないので、国から見た姿というのはわからないのですが、民間企業から入ってきて、これはなかなか大変な構造になっていて、これで回せ、あるいはまだまだ下げられるだろう、少しずつ引くよと言われましても、難しいなということを感じています。実際、

社会保障関係費はこれからどんどん増えていくのがわかっていますし、現時点でも臨財債の部分が増えてきまして、取扱いが難しい状況ですので、そこはきちんとしてもらいたい。もしくは我々とちゃんとこれからどうしていくつもりなのか話し合っていたらいいかと、次の意見交換テーマになります突然の給与引き下げの要請が来たりとか、長期的なことを内閣がころころ変わっている状態で5年後にどの党が政権になっているかわからないというつもりなのかもわかりませんが、きちんと腰を据えて財政について話し合いをしなければいけない気がいたします。これは単県の問題ではありえませんが、両県、全国知事会とも連携しながら、国に対して申し入れていかないといけないことだと思っております。

**浜田知事** そうですね。ぜひ知事会等でも、また今度政府主催の知事会があると思っておりますので、これはもうほとんどの県共通の思いであると思っております、まあ一部富裕県の立場もあるかと思っておりますが、制度全体については地方側の思いは共通だと思っておりますので、引き続き一緒に声をあげていければと思っております。

そこで今、伊原木知事さんからお話しがありました、地方公務員給与の在り方について、ご発言があれば、よろしくお願いします。

**伊原木知事** はい。これは非常に強く主張していきたいと思っております。皆さんご案内のとおり今年度国の方から、たった2年間やっている国の給与カットに合わせて、地方も給与をカットしてほしい、給与をカットしやすいようにあらかじめカットした水準で計算して地方に送る。カットするしないは自由だけれども、カットしない自治体は余裕がある自治体とみなして、他の予算も考慮するよ。ということで本当に事実上強制的なカットが行われたということでもありますけれども、20～30年前にラスパイレス指数がよく言われていた頃には、地方は楽だなと言われていた時期があったのかもしれませんが。私はその頃地方自治に携わっていなかったのが本当のところはわかりませんが、実際この10年、15年をみると人員の削減の仕方、給与カットの仕方は、地方の方が明らかに大幅に頑張ってきているわけですので。特にその中でも岡山県は、財政が厳しかったこともあって、知事部局の人数を3分の2に減らしている、約6,000人いたところを約4,000人にしたりとか、10年以上ずっと給与カットをしてきている。まさに身を削るような、血のにじむような努力をしてきたわけでありましてけれども、そこにおいて国がこれまで10年、15年でどれだけ人をカットしてきたか、全国知事会で調べた数字では3%カットしたらしいとか、給与カットについてもほぼしていないとか、そういう状態で地方にだけ押し付けてくるやり方、しかも手順についても本当におかしいと思っております。こんなことが来年度以降おこらないように我々は各方面に強く訴えかけていかなければいけないと思っております。岡山県だけが叫んでいても押しつぶされる可能性がありますので、是非ともよろしくお願いします。

**浜田知事** はい。本当に岡山県さんもそうですけれども、本県も9年連続給与カットを実施してまいりました。そういう努力をしているところが、国の状況と違うじゃないかという点、ここがもうボタンの掛け違えが起こっている。そこを国側は、棚に上げてという表現がふさわしいかどうかわかりませんが、私達は2年間やっているから、結果的にラ

スパイレス指数がひっくり返っているよということなんですけれども、ラスパイレス指数そのものも、愛媛県知事さんなどもよくおっしゃってますけれども、比較の仕方が違うのではないかということで、いろんな計算もありますけれども、実際の実額として、平均的な給与、平均をとり方が難しいところがありますけれども、地方が国よりも高いということはないわけでありまして。それがラスパイレス指数をみれば、今年はこのような形になってしまっている。そのへんも、何を物差しとして、国民の皆さん、県民の皆さんに、我々は努力しているといること行革もきちんとやっているということをご理解いただくためにも、そういった土俵というか、一方的にいろいろやられることがないような、伊原木知事さんがおっしゃったように我々とちゃんと話していただかないといけないと思っております。交付税制度を使って、何かこう誘導するというのは交付税の本来の趣旨から外れているといわざるを得ないと思っております。そういうやり方ではなくて、地方の自主性を尊重しながら、法律に定めた形でやっていきたい。私どもも10月からカットすることになったわけですが、出だしのところの国の手順も含め、こういったことを二度と行わないように、私ども交付税法に基づく意見の申出も行っておりますけれども、そういう算定方法に基づく意見の申出など、こういったあらゆる機会を通じて、こういうやり方は基本的にやめて欲しいということを引き続き、またいずれにせよ交付税総額の確保ということについても声を上げていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

**伊原木知事** 岡山県も同様の申出をさせていただきました。

**浜田知事** それではまたがらっと変わりました、先ほどの話題にも出ておりましたけれども、瀬戸内海国立公園80周年ということにつきまして、私の方から口火を切らせていただきましたと思います。いわゆる瀬戸内海国立公園ですが、昭和9年3月16日に備讃瀬戸を中心に、雲仙、霧島と並んで初の国立公園として制定されたということでございます。70周年の時には岡山県で国の記念式典が行われたわけですが、今回80周年は来年7月に香川県で国の記念式典もお願いしたいと思っております。世界の宝石といわれる瀬戸内海の素晴らしさをぜひ県内外の人に知っていただきたい。さらに瀬戸内海の実環境保全の意識というの、この間特措法40周年がございましたけれども、現在開催しております瀬戸内国際芸術祭に引き続いて、来年も瀬戸内海を活用した賑わいづくりというものを図って、地域の活性化に繋げていきたいと思っております。そういう意味で80周年記念事業に取り組んでいきたいと思っておりますが、これについてぜひ岡山県とも連携してまいりたいと考えております。3月16日のキックオフでウォーキングイベントを開催するというので、屋島、寒霞渓と同時に、岡山県側でも鷺羽山で開催が予定されていると伺っております。3か所同時開催ということで盛り上げていけるように、今後また連携していければと思っております。また4月以降も80周年を契機に両県の活性化、観光も含めて賑わいづくりしてまいりたい。ぜひ協力連携して、相乗効果を発揮したいと思っておりますので、ぜひよろしく申し上げます。

**伊原木知事** とにかく両県ともに同じ海に接しておりますので、その海に関するイベントは片方だけでやるよりも、みんなでやった方が必ず盛り上がりますので、ぜひ連携していきたい。これ（記念式典）は10年ごとにどちらが主体になるかこれまでの慣例があるようで

すけれども、同時にやって、一緒に盛り上げていくいい機会ですので、ぜひ一緒にしたいと思っております。

**浜田知事** そうですね。先ほど伊原木知事さんがおっしゃった瀬戸内海の瀬戸内ブランド推進連合など、この間私は香川と徳島でやりましたが、伊原木知事は広島とやられたような取組みは本当に広域の取組みとして、両県だけでなく、瀬戸内海全体に繋がっていかばと思っております。今回、芸術祭の関連ということでもあったのですが、国際ヨットラリーというものが10月5日の開幕の時にあり、広島の方から来てくれて、いろんなところに寄って行ったりしたのですが、そういったアイデアを本当に瀬戸内海の活用ということで、瀬戸内海を宝として、取り組んでいく必要があるのかなと思っております。

**伊原木知事** 昨日たまたま犬島に行って、維新派の公演を福武会長と一緒に拝見したのですが、本当にすごい。瀬戸内海をバックに演劇があって、屋内では見られないスケールでした。やはり海をいかに使っていかだと思いました。

**浜田知事** せっかくの機会ですので、その他ということで両県のPRをさせていただければと思います。さきほどからの話題にありますとおり香川県としては、今、芸術祭の秋会期ということで、岡山県でも犬島、宇野港でやっていただいておりますけれども、今回新しく西の島も加わっていて、丸亀の本島、多度津の高見島、こちら実は人口が50人くらいの島なんでありまして。さらに、三豊の粟島、こちらは国立の最初の海員学校があったところでありましてけれども、そういったところでいろんな作品が展示されておりますので、夏会期に引き続いてたくさんの方をお迎えしたいと思っております。それと合わせて、これは本当にPRですけれども、観光面でうどん県時間旅行物語と称してですね、これは本当に純粋な観光プロモーションであります。芸術祭は観光というより、アートによる地域おこし、海の復権というところがありますが、それに合わせて香川県の老舗観光地である金毘羅さん、あるいは屋島、栗林公園。さらにそれ以外に仏生山など、また、アート、食がありますので、コンセプトは懐かしの修学旅行と称しております。団塊世代の非常に多くの方が、修学旅行で屋島とかに来られていたのですが、皆さんリタイアされたり、あるいは余裕ができて同窓会なんか盛んになって、そうするとそこで必ず話題になるのが、どこかへ旅行に行こうかということでありまして、行き先の候補のひとつとして、かつて修学旅行に行ったところというのが在りうるのではないかと。現実にはそういったことでお見いただいている例も増えてきているようですので、我々としてはうどん県時間旅行物語と称して、キャンペーンをやっているところであります。ぜひ岡山側でもPRさせていただければと思っております。

**伊原木知事** こちらもPRをさせていただきます。香川県が海で盛り上がっている、我々も玉野市、犬島で参加させていただいているわけでありまして、岡山は主に山の方で盛り上がっております。美作国が続日本紀に書かれてありますように、西暦713年に備前国から分かれた、それから1300年たったということで、今1年かけてお祭りをしてる最中でありまして。美作地域は岡山県の北東部になるのですが、100以上のイベントをしております。岡山駅からNARUTOのラッピング列車を毎日走らせておりまして、家族連れ、



子供連れでにぎわっておるわけでありませう。後半には、美作市にお住まいで、有名な作家のあさのあつこさんに推理小説を書いていただきました。私も数日前に行ってきたのですが、意外と難しい。大体見えてきたんだけど、どうしてこれがあんなのかきちんと説明できるには至っておりませう。なかなかよくできた推理小説でありますし、行ってみるといろんな人に会いました。「どこどこ行きましたか。」、「あそこ、これから行くんです。」ということで非常に楽しいイベント（推理小説の読者が、小説の舞台である美作地域の現地を訪れ、謎を解き明かす参加型イベント）になっておりますので、ぜひ皆さんお越しいただければと思っております。私も行ってみたいのが、岡山県に住んでいても、行って見たらこんな綺麗なところがあったのかというような驚きがありますので、瀬戸大橋を渡って行ってみると、意外と楽しい岡山県なんで、ぜひ、よろしくお願ひしたいと思ひます。

**浜田知事** ありがとうございます。本当に最後おっしゃったように近場ほどいつでも行けるという感覚があるのかと思ひますけれども、岡山の温泉も素晴らしいですし、香川県も芸術祭の各島などは、香川県の人も行ったことがない。島巡りとはいっても普段は行かない。今回この機会に初めて行ったというようなこともありますので、やはりその地域で、さらに香川、岡山が一体となって、最初に伊原木知事さんがおっしゃったようにテレビも共通しておりますし、相互交流というもの。やはり観光客というものは海外や遠距離からだけでなく、近場での行き来も非常に重要であると考えております。例えば九州などはすごくそういうのが多いと聞いたことがありますので、中四国もそういうふうになればいいなと思っております。

それでは、他になれば意見交換はこのへんにさせていただきたいと思ひます。よろしいでしょうか。

**伊原木知事** ありがとうございます。

**司会** どうもありがとうございます。以上をもちまして、香川・岡山両県知事会議を閉会させていただきます。引き続きまして、この場でございますけれども、マスコミの皆様から御質問をお受けしたいと存じます。なお、質問されます方につきましては、恐縮でございますけれども、最初に社名とお名前をおっしゃってからお願いをしたいと思います。どなたからでもけっこうでございますので、どうぞ挙手をお願いしたいと思います。

#### 4 記者会見

**記者** 瀬戸内海放送の引田と言ひます。よろしくお願ひします。伊原木知事が去年11月に就任されましたので、今回こういった形で浜田知事と対談されるのは初めてだと思ひますが、両県知事初めての知事会議を終えられての感想を一言ずつお願ひいたします。もう一点が地方公務員給与の在り方について、国の交付税等のやり方についてはおかしいという発言がございましたが、今後どのように例えば、岡山、香川と知事会が連携して、国に対してアピールしていきたいとかいうような考えがあればお聞かせください。

**伊原木知事** まず私から。浜田知事との両県知事会議が初めてというのは今言われて初め

て、そうだったんだと思いました。就任してすぐ、年末年始のテレビ番組の収録で何度もご一緒させていただきましたので、2回目くらいの感覚でおりました。いろんなところでお世話になっております。こういうフォーマットでは初めてだったかもしれません。お互い共通している問題点もありますし、同じ海に面しているわけでありますので、ぜひこれから共通の課題について話し合っていきたい。もしくは片方について課題であって、もう片方は今のところ課題に思っていないことについても積極的に問題提起をして解決につなげていきたいと思っています。

公務員給与のことなんですけれども、私民間から来ておりまして、話は少し外れるのですが、本日岡山県の人事委員会から勧告がありました。私自身は選挙期間には役人というのは民間と比べて優遇されているのではないかとやってきた人間なものですから、人事委員会の計算の仕方もバイアスがかかっているのではないかと考えているのですけれども、今回の給与の下げ方というのは全く理不尽な下げ方ですし、それまでの岡山県でやってきた給与の下げ方についても、職員に責任のない原因によることで給与を下げているわけです。岡山県の財政が厳しいのは事実であり、人件費を削減しないと予算が立てられなかったというものは間違いのないことですが、県庁職員は毎年の予算の議決権がなかったわけです。議員にしか議決権がないのですから、そういう人から給与を取って、予算をつくっていくというのは本来やるべきことではない。私とすればそんなことに頼らずに予算を立てたいですし、国からそのような強制はされたくありません。知事会でみんなで、そんなことを二度としてほしくないということを粘り強く言っていくしかないと思っています。

**浜田知事** 私もほぼ同じでありまして、伊原木知事さんとは就任以来、何度もいろんなところでご一緒してますので、これが初めてという感じは全くしません。いずれにせよ両県、海を隔ててはおりますが、一体となって瀬戸内海を通じて、これからも連携していく必要がますます高まっていくと思います。

公務員給与については、先ほども申し上げましたけれども、これも岡山県さんと同じことでありまして、手順なり交付税で誘導するようなやり方をしないように、これは国と地方の協議、これは六団体ベースで前政権時代からありますが、また近いうちにあると思いますので、そういったところで知事会や市長会等できちんと我々の声を粘り強く、国に対して働き掛けていくといいですか取り組んでいくということに尽きると思います。

**司会** その他の方いらっしゃいますでしょうか。

**記者** 山陽新聞の二羽と申します。今回の共同アピールで本四高速の料金の全国共通料金の導入ということですが、去年とほとんど趣旨、内容が同じではないかと思うのですが、中間答申を踏まえると、残念ながら両県はじめ関係自治体の思いが国に届いていないのではないかと思います。そのあたりの思いをもう一度お聞かせください。

**浜田知事** おっしゃるとおりです。我々は1年前にというかもっと前から格差のない、利用しやすいということをおっしゃって、格差のないというところに割引も含めてということは我々は当然だと思っておるわけですが、それが審議会や有識者で今ご指摘の

ような割引について、本四高速については他の交通機関への影響を考えるべきだというのが6月に出てきていて、そこが昨年との違いであります。我々はその初めにあったとおり利用されて初めて価値がある橋であるわけです。フェリーやJRの問題があるから、料金はそちらを慮って、本四高速だけは全国と料金が違うというのはひっくり返った議論だと先ほども申し上げましたけれども、まずは全国共通料金にして、そしてその中で地域として色々な問題があるのだとすれば、それは総合的な交通体系の中で、国と地域と両方で取り組んでいく話だと思います。会計検査院からの意見もございましたけれども、はっきりいって全国共通料金にする、また出資も2年限りということで合意した話について、前提が違う計算をされているとしか言いようがない。議会でも答弁しましたが、大変強い違和感を持っております。我々の共通の思いは格差のない、割引も含めて利用しやすい料金にして欲しいということで変わってはないので、今後も続けて働き掛けていく、そうしないとならぬための架橋なのかということになってしまっているのではないかと思います。

**伊原木知事** 私自身は1年弱前から今の立場にたちまして、それ以前のことをきちんと体感できていないわけですが、最初に料金問題を言い始めた頃の報道というのは「何をバカなことを言っているんだ」というようなこともあったと思いますが、今はかなり「仕方ないな」と我々がこれまでずっと主張してきた線に沿って、検討してくれているような反応が漏れ聞こえてきております。我々の思っている満額回答ではないかもしれませんが、そんなに大きな乖離もないと考えております。この数年間で着実に我々の思い、訴えは通じてきていると考えております。

**記者** 朝日新聞の高橋と申します。お二人に伺いたいのですけれども、本四高速の件ですが、来年度から料金引き下げと関係自治体の出資取りやめというのは、すでに合意されているようなのですが、その場合にどういう形で債務を返済していくのか、どういう形での債務返済計画が望ましいとお考えなのかということと、あともう一点、先ほどからフェリーやJRの維持も大切だというお話も出ていたと思うのですが、具体的に自治体としてどのような他の交通機関への支援策を考えていらっしゃるのかをお聞かせください。

**浜田知事** まず債務の問題ですが、要は利用者の負担をどう考えるのかと同じだと思うのですけれど、結局そこにいきつくところがあるのですけれども、いろんな問題でまずやっぱり50年という、現在の制度はそういう期間になっているのですが、例えば具体的には修繕費、例の中央高速のトンネルの問題で、維持、修繕、機能を維持していくために必要な財源が現行の制度では出てこないということで、その部分についてどうするのかという議論もあります。そのときに出てきている業務の一つが償還年限の延長ということでありますけれども、それをもって財政規律が緩んでいるような話ではないと思いますので、そういったことも維持修繕費だけではなくて、一つの考え方ではないかと。それから全国共通プールといっているわけですが、我々の負担を皆さんにお願いすると言っているのではなくて、全体の負担というのは、最初に本四公団だけが道路公団と違って別会社という形で作ったものですから、独立採算のように思われているわけですが、本当の考え方として、あるいは利用を中心として考えた時にネクスコでやっているのと同じことを本四、また他のところでも適用して、利用されるようになれば全国、全体の経済活

動にプラスの影響を与えるわけですから、我々が負担から免れる、あるいは他の人に押し付けるということを考えているわけではありません。出資という意味では、よそはどうだと言いたくないですけども、現在新直轄でやっている地方負担以上のものを我々はもうすでに負担しています。新直轄というのは皆さんご存知の通り料金無料なんです。そういったことも含めて考えていただかないと本四道路だけが、さきほどあえてここが海でなければと申したのは実はそういう意味がありまして、3本も作ってというのが東京の方に行くと言われるのですが、ここが陸だと考えたら、今の高速道路の整備状況からしたら、いかに少ないか、3ルートでも我々としては十分ではないのではないかと考えている。我々だけを特別扱いするのをやめて欲しいと申し上げているので、具体論は先ほど申し上げた形であります。他の公共交通機関への支援策ですが、具体的には実は香川県ですでに一度、この問題とはまた別の観点ではありますけれども、いわゆるけい船料の免除というような形で、金額的にはかなりになるようなことを宇高航路のフェリーについて実施したことがあります。それについて現在は行っておりませんが、例えばこれまでもそういうことをやって、それは今後それまでの2社体制がどうなるかという議論も踏まえて一旦、どういうスキームとしての体制ができるのかというようなことをいろいろな協議会でも検討してきたのですけれど、そういった場でもまた、まずは高速料金の方が決まらなければいろんな計算ができないわけです。我々としてはいろんな仕組みを取りうるかと考えておりますが、それぞれの主体がどういうふうを考え、行動するのかということである。それが最終的に地域の負担ということであれば、県民の理解を得ていかなければならないと思っています。

**伊原木知事** 私からも。浜田知事がおっしゃったことが、ほぼ私の意見になっているのですけれども、全国制にいられていただくというのが現実的だと思っています。さきほどそれはずるいかもしれないというようなことがあったのですが、作る時の意思決定については問題があったかもしれないと思っております。本当にこれだけのお金で作ることがどうなのかということなんですけれども、作る決定をするしないということと作った後どういうふうに使っていくのか、どういうふうにして元利払いをしていくのかというのは問題としてはかなり違うと思います。タイムマシンに乗って昔に戻ることはできないので、現状で一番効率的、合理的な使い方考えるべきだと思っております。橋だけで採算を合わせていこうということにすると会計検査院の試算のようなことになって、この橋を使うなということになってしまう。もしくはこの橋を使わなければいけない人に罰金に等しいような料金を課すようなことになって、国民全体の利益にならないと考えています。あるものをいかに有効に使っていくのか、経済を活発にしていって、その中から元利払いに充てるお金を生み出していく、それが一番前向きな解決方法だと考えております。フェリーの支援ですけども、これはいろんなメニューが考えられるわけでありまして、行政ができるメニューであって、かつフェリー会社にしても意味があるものをどういうふうを選んでいくのかこれからの検討課題だと思っております。フェリー会社と相談する必要があるれば、相談をしたいですし、我々としても万歳をされてから慌てて話をするのではなく、きちんと定期的に今どういうふうになっていて、どういうことを望んでいるかという連絡、意思の疎通はしていきたいと思っています。

**司会** このあたりでと思っておりますが、よろしいでしょうか。それでは予定の時間となっておりますので、これで質疑応答は終わらせていただきます。本日はどうもありがとうございました。